

鹿児島県歯科口腔保健計画
最終評価報告書

令和6年2月
鹿児島県

目 次

第1章	最終評価の目的と方法	1
1	最終評価の目的と調査方法	1
2	最終評価の方法	2
3	最終評価の結果	2
4	最終評価総括及び課題	4
第2章	各数値目標の評価及び要因分析	
1	歯科疾患の予防・口腔機能の維持向上	5
(1)	乳幼児期	5
(2)	学齢期	6
(3)	成人期	7
(4)	高齢期	8
2	定期的に歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科 口腔保健の推進	9
3	離島・へき地地域の歯科医医療・歯科保健の推進	10
4	歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備	11
5	鹿児島県歯科口腔保健計画の数値目標の評価一覧	13
(参考)	県民の歯科口腔保健実態調査の結果	14

第1章 最終評価の目的と方法

1 最終評価の目的と調査方法

(1) 最終評価の目的

「鹿児島県歯科口腔保健計画」（計画期間：H25年度～R5年度）に基づき歯科口腔保健の各種施策を推進しているところであるが、当計画の最終評価及び次期計画策定の目標値を設定するにあたり、これまでの施策の成果及び達成度を把握し分析するため実態調査を実施した。

(2) 調査時期

令和4年8月～11月

(3) 調査対象及び方法

ア 県民を対象としたアンケート調査及び歯科健診の実施状況

区分	対象年齢	調査項目	対象者数	調査人数	回収率 (%)
乳幼児期	1歳6か月児	歯・口腔の状況	793	676	85.2
	3歳児	歯磨き行動 歯科保健意識等	840	729	86.8
学齢期	中学1年生	歯科保健意識・知識行動	1037	1033	99.6
成人期～ 高齢期	県民栄養調査地区 20歳以上	歯・口腔の状況 歯磨き行動	1689	789	46.7
	歯科医院受診の患者 20歳以上	口腔内診査及び 歯・口腔の状況 歯磨き行動	480	552	115.0*
障害児者	障害者施設	施設での歯科健診の実施状況 歯科保健取組等	84	48	57.1
要介護者	介護保険施設 (介護老人福祉施設・ 介護老人福祉施設)	施設での歯科健診の実施状況 歯科保健取組等	301	175	58.1

*回収率を上げるために、調査対象者数を超えて口腔内診査を実施

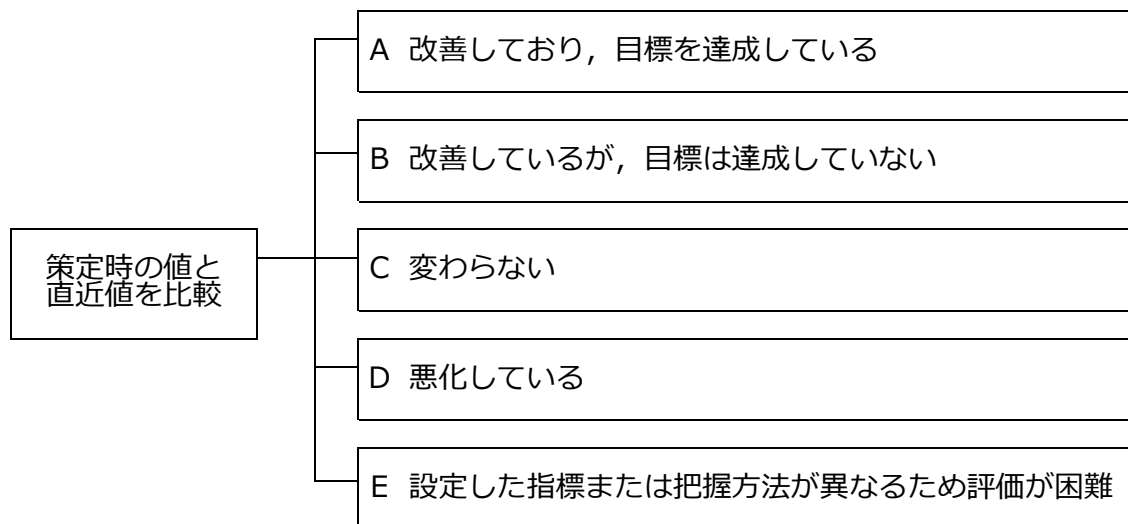
(4) 集計・分析

各地域振興局等による調査及びデータ入力を行い、鹿児島大学医歯学総合研究科へ委託し分析を行った。

2 最終評価の方法

各目標の指標達成状況については、実績値の変動を分析し、計画策定時と中間評価時、令和4年度（一部令和3年度）の実績を比較し、その達成状況により5段階（A, B, C, D, E）で評価した。

評価がC・Dであった指標に関する主な施策や取組の評価を行い、今後の重点的に取り組むべき課題を抽出した。



3 最終評価の結果

(1) 全体の目標達成の状況の評価

指標全21項目について達成状況の評価。各内訳は「A 改善しており、目標を達成している」が7項目、「B 改善しているが、目標は達成していない」が7項目、「C 変わらない」が4項目、「D 悪化している」が3項目、「E 設定した指標または把握方法が異なるため評価が困難」は0項目であった。

【全体の目標達成の状況】

評価（策定時のベースライン値と直近の実績を比較）	項目数	割合
A 改善しており、目標を達成している	7	33.3%
B 改善しているが、目標は達成していない	7	33.3%
C 変わらない	4	19.0%
D 悪化している	3	14.3%
E 設定した指標または把握方法が異なるため評価が困難	0	0
合計	21	100.0%

(2) 各項目の評価

「A 改善しており、目標を達成している」項目は、次の7項目である。

項目	ライフステージ等
① 1歳6か月児でのむし歯のない者の割合	乳幼児期
② 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合	高齢期
③ 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合	高齢期
④ 60歳代における咀嚼良好者の割合	高齢期
⑤ 過去1年間に歯科健診を受診した者の割合	社会環境
⑥ 3歳児でむし歯がない者の割合が80%以上である市町村数	社会環境
⑦ 健康増進法に基づく歯周疾患検診を実施する市町村数	社会環境

「B 改善しているが、目標は達成していない」項目は、次の7項目である。

項目	ライフステージ等
① 3歳児でのむし歯のない者の割合	乳幼児期
② 12歳児でのむし歯のない者の割合	学齢期
③ 40歳の未処置歯を有する者の割合	成人期
④ 障害者支援施設及び障害児入所支援施設での定期的な歯科検診実施率	歯科受診困難者の歯科保健
⑤ 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率	歯科受診困難者の歯科保健
⑥ 離島・へき地における歯科巡回診療における定期的な歯科検診・歯科治療の受診率	離島・へき地地域の歯科保健
⑦ 在宅療養支援歯科診療所数	社会環境

「C 変わらない」項目は、次の4項目である。

項目	ライフステージ等
① 中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合	学齢期
② 40歳で喪失歯のない者の割合	成人期
③ 60歳の未処置歯を有する者の割合	高齢期
④ 60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	高齢期

「D 悪化している」項目は、次の3項目である。

項目	ライフステージ等
① 3歳児での不正咬合等が認められる者の割合	乳幼児期
② 20歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	成人期
③ 40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	成人期

4 最終評価総括及び課題

項目指標の状況について、21 項目中、14 項目（66.7%）において、目標達成又は改善傾向にあった。乳幼児期・学齢期のむし歯、高齢期の現在歯数や咀嚼力、定期的に歯科検診を受診する者の割合及び離島・へき地における巡回歯科診療の定期的な歯科検診・歯科治療の受診も改善しており、この 11 年間で歯科口腔保健の取組は大きく進み、県民の歯及び口腔の健康への関心が高まったことにより、総じて歯・口腔の状態は向上していると考えられる。

一方で、中学生・高校生等の歯肉有所見や成人期の未処置歯を有する者、喪失歯を有する者の割合、高齢期の歯周病などについては改善がみられなかった。学齢期においては、むし歯予防に合わせて歯周病予防についても指導を行っていく必要がある。

また、働き盛りの歯科の受診については、仕事を優先し歯科医院受診の優先順位が低くなるのではないかと推測されることから、職域等と連携して普及啓発や働きかけを行い、早期発見・早期治療を促していくことも重要である。

障害児者等の健診困難者の歯科健診実施率や在宅療養支援歯科診療所については改善傾向にあったが、要介護者の口腔内状態は誤嚥性肺炎や低栄養など、全身状態と密接な関係があり、安全に自分の口で食べられるよう、多職種連携による口腔ケアや口腔リハビリは重要である。今後も継続して、施設等における定期的な歯科健診の実施や在宅等でも必要な歯科医療サービスが受けられるよう、さらに多職種による連携や支援体制の充実を図ることが重要である。

なお、今回、3 歳児における不正咬合、20 歳及び 40 歳代の歯周病の 3 項目は悪化している状況であった。口腔機能の獲得や発達支援については、乳児期からの保健指導や支援が重要となってくる。また、青壮年期の歯周病予防対策については、歯周病による歯の喪失を防止するためにも、今後、青壮年期にターゲットを絞って重点的に普及啓発を行うことが重要である。

むし歯や歯周病の歯科疾患予防、口腔機能の獲得・維持・向上を図るためには、個人のライフコースに沿った、歯・口腔の健康づくりを図る必要がある、健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしている、歯科口腔保健対策を引き続き推進していくことが重要になってくる。

- 課題 1 乳幼児期の口腔機能の獲得・発達と生涯にわたる口腔機能の維持向上
- 課題 2 学齢期から青壮年期における歯周病予防対策の強化
- 課題 3 歯科疾患予防・早期発見・早期治療・口腔機能の維持向上のため、定期歯科健診の促進
- 課題 4 これらを支える、かかりつけ歯科医機能の強化

第2章 各数値目標の評価及び要因分析

1 歯科疾患の予防・口腔機能の維持向上

(1) 乳幼児期

目標	指標	対象年齢	ベースライン値 (H22年度)	中間評価 (H28年度)	最終評価時 (R3年度)	国状況 (R2年度)	目標値 (R5年度)	評価
健全な歯・口腔の育成	1歳6か月児でむし歯のない者の割合	1歳6か月児	95.7%	97.4%	99.0%	98.9%	99%	A
	3歳児でむし歯のない者の割合	3歳児	70.7%	79.6%	85.5%	88.2%	88%	B
口腔機能の獲得	3歳児で不正咬合等が認められる者の割合	3歳児	10.7%	15.3%	22.2%	14.0% (R1年度)	8%	D

〔主な取組〕

	市町村 () 実施市町村数	県
妊娠期・乳幼児期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妊産婦歯科健診 (36) ・ 3～4か月児歯科指導 (22) ・ 6～7か月児歯科指導 (35) ・ 1歳児歯科指導 (15) ・ 1歳児歯科健診 (9) ・ 1歳6か月児歯科健診 (43) ・ 2歳児歯科健診 (31) ・ 2歳6か月児歯科健診 (32) ・ 3歳児歯科健診 (43) ・ 5歳児歯科健診 (14) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ フッ化物洗口推進支援事業 ・ 乳幼児医療費助成事業 ・ 子ども医療給付事業 ・ ひとり親家庭医療費助成事業

(健康増進課調べ)

〔評価結果の概要〕

「1歳6か月児でのむし歯のない者の割合」の評価はAであり目標を達成している。

「3歳児でのむし歯のない者の割合」についての評価はBであり、目標に届かなかったものの、口腔内環境は改善傾向にあると考えられる。これは母子歯科健診時の保健指導やフッ化物利用の促進などが要因として挙げられ、歯科保健指導により幼児の保健行動に変化が生じ、むし歯予防に繋がった可能性が考えられ、妊婦歯科健診の実施や乳幼児期における歯科保健事業の成果であると考えられる。

「3歳児での不正咬合等が認められる者の割合」の評価はDであった。3歳児における不正咬合の割合は増加傾向にあり、これは全国的にも同様の問題となっている。食生活の変化や生活様式の変化が背景にあると考えられ、乳幼児期における適切な口腔機能獲得のために、口腔機能の発達を促すための歯科保健指導等の強化が必要である。

(2) 学齢期

目標	指標	対象年齢	ベースライン値	中間評価 (R29年度)	最終評価時 (R4年度)	国状況 (R3年度)	目標値 (R5年度)	評価
口腔 状態 の向 上	12歳児でむし歯のない者の割合	12歳	44.7% (H23年度)	57.7%	59.1% (R3)	71.7%	65%	B
	中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合	中学1年生 高校1年生	23.1% (H24年度)	27.8%	23.4%	38.2%	20%	C

〔主な取組〕

	公立学校	県
学齢期	<ul style="list-style-type: none"> 公立学校歯科健康診断 小学校：479校 中学校：203校 義務教育学校：10校 高等学校：68校 特別支援学校：16校 	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健・安全・歯科保健講習会 （一社）日本学校歯科医会委嘱「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業

(健康増進課調べ)

〔評価結果の概要〕

「12歳児でのむし歯のない者の割合」の評価はBであった。最終評価においては、59.1%と目標には届かなかったが、ベースライン時に比べ20%近く増加している。

この背景として、歯科保健行動の変化が可能性としてあげられる。県民の歯科口腔保健実態調査において、「毎日歯をみがく者の割合」はベースライン時において91.9%であったが、最終評価時には95.3%まで有意に増加していた。

また、「歯科医院で年1回以上、定期健診を受けたことがある者の割合」はベースライン時において22%であったが、最終評価時は53.2%と有意に増加する傾向にあった。これらの結果から、定期的に歯科通院する者が増加し歯磨き習慣が改善したことにより、学齢期におけるむし歯予防に繋がった可能性が高い。また、県内のフッ化物洗口実施校も増加しており、このことも、むし歯の改善の背景の一つであると考えられる。

「学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合」の評価はCであった。歯肉炎は自覚症状に乏しく、中学生において歯肉からの出血や腫れは歯科受診のきっかけとなりにくいと考えられる。中学生以降の生活習慣の乱れが歯肉炎を悪化させる要因になることも考えられることから、今後中学生・高校生の歯周病の状況は注視していく必要がある。一方で「歯周病を予防する方法を知っている者の割合」は経年的に有意に増加する傾向にあり、歯科保健知識は少しずつ定着しているものとする。今後は、知識と予防行動が結びつくよう、学齢期からの早期歯周病予防対策の強化が必要である。

(3) 成人期

目標	指標	対象年齢	ベースライン値 (H23年度)	中間評価 (H29年度)	最終評価時 (R4年度)	国状況 (R4年度)	目標値 (R5年度)	評価
健全な 口腔状態の維持	20歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	20～29歳	25.0%	14.3%	44.4%	25.6%	15%	D
	40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	40～49歳	47.1%	36.0%	64.1%	39.8%	25%	D
	40歳の未処置歯を有する者の割合	35～44歳	46.7%	67.7%	33.0%	27.6%	10%	B
	40歳で喪失歯のない者の割合	35～44歳	63.3%	87.1%	61.0%	76.4%	68%	C

〔主な取組〕

	市町村 () 実施市町村数	県
成人期	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患健診(43) ・健康教育(歯周病)(11)*R3年度 ・健康相談(歯周病)(12)*R3年度 	<ul style="list-style-type: none"> ・成人期の歯科口腔保健対策事業 ・健康増進事業(歯周疾患検診) ・糖尿病重症化予防に係る歯科保健指導事業

(健康増進課調べ)

〔評価結果の概要〕

「20歳代における進行した歯周炎を有する者の割合」, 「40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合」の 評価はDであった。県民の歯科口腔保健実態調査の結果の分析から, 進行した歯周病を有する者はそうでない者と比較して, 歯磨きの回数, 過去1年間に歯の磨き方の指導を受けた経験, 過去1年間に歯科健診を受けた経験が有意に少ないことが明らかとなっている。このことから, 定期的な歯科健診や歯周病検診により歯周炎を認知する機会を増やし, 歯科保健行動を改善するためのきっかけ作りが必要であると考えられる。

「40歳の未処置歯を有する者の割合」の 評価はBであった。全国的に未処置歯数は減少傾向にあり, 本県においても同様の結果となった。未処置歯を有する者はそうでない者と比較して「1日3回以上みがく者の割合」や「デンタルフロスや歯間ブラシを使っている者の割合」, 「この1年間に歯科健診を受けたことがある者の割合」が高く, 歯科医院通院により適切な歯科保健行動を習得できたと考えられる。良好な歯科保健行動を確立し未処置歯や歯周炎といった歯科疾患予防のためにも, 定期歯科通院の啓発や歯科保健指導の徹底が必要である。

「40歳で喪失歯のない者の割合」の 評価はCであった。働き盛りの適切な歯科治療の推進が必要であるとともに, むし歯や歯周病による歯の喪失を予防するためにも, 普及啓発の推進を図り, 生活習慣の改善やセルフケアの実践, 定期的なプロフェッショナルケアなどの, 重症化予防を始めとした対策が引き続き重要である。

(4) 高齢期

目標	指標	対象年齢	ベースライン値 (H23年度)	中間評価 (H29年度)	最終評価時 (R4年度)	国状況 (R4年度)	目標値 (R5年度)	評価
歯の喪失防止	60歳の未処置歯を有する者の割合	55～64歳	36.4%	60.0%	34.8%	26.1%	10%	C
	60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	60～69歳	64.9%	69.2%	62.4%	51.4%	45%	C
	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合	55～64歳	52.8%	70.0%	70.7%	80.9%	70%	A
	80歳で20歯以上の歯を有する者の割合	75～84歳	26.7%	29.0%	61.9%	51.6%	50%	A
口腔機能の維持・向上	60歳代における咀嚼良好者の割合	60～69歳	75.5%	64.1%	85.9%	71.5% (R元年度)	80%	A

〔主な取組〕

	市町村等（ ）実施市町村数	県
高齢期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の保健事業と介護予防事業の一体的実施（ハイリスクアプローチ）(11) ・ 介護予防事業関連事業（健康教育等）(36) ・ お口元気歯ッピー健診 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防従事者研修会（かごしま介護予防市町村支援事業） ・ 地域支援事業 ・ 歯科医師向け認知症対応力向上研修（認知症施策連携・体制整備事業） ・ オーラルフレイルを通じた介護予防人材育成推進事業 ・ 糖尿病重症化予防に係る歯科保健指導事業

（健康増進課調べ）

〔評価結果の概要〕

「60歳の未処置歯を有する者の割合」及び「60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合」の評価はCであった。明らかな数値の変動はみられなかった。

また、「60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合」、「80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合」及び「60歳代における咀嚼良好者の割合」の評価はAであった。今回の実態調査は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、歯科医院での個別受診者も対象に調査を実施しており、日頃通院をしている者も含まれることから、結果に偏りが生じている可能性はある。

しかし、県民の歯科口腔保健実態調査の分析から、24歯以上歯を有する者はそうでない者と比較して、かかりつけ歯科院を持つ者やこの1年間に歯科健診を受けたことのある者の割合が有意に高かった。歯科治療等により、早期治療や歯科指導を受けることにより、歯科口腔保健の意識向上がみられ、現在歯数に影響した可能性が考えられる。現在歯数が増加したことで咀嚼能力も維持され、結果的に咀嚼良好者の割合も増加したと推測される。

2 定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健の推進

目標	指標	対象年齢	ベースライン値 (H24年度)	中間評価 (H29年度)	最終評価時 (R4年度)	現状 (R元年度)	目標値 (R5年度)	評価
定期的な歯科検診・歯科医療の推進	障害者支援施設及び障害児入所支援施設での定期的な歯科検診実施率	障害者(児)施設	51.5%	64.3%	79.2%	77.9%	90%	B
	介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率	介護老人福祉施設及び介護老人保健施設	20.4%	33.5%	37.7%	33.4%	50%	B

〔主な取組〕

	県
障害者(児) ・要介護高齢者	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者等歯科診療普及事業 ・障害者等歯科診療所運営事業 ・訪問口腔保健指導 ・重度心身障害者医療費助成事業

(健康増進課調べ)

〔評価結果の概要〕

「障害者支援施設及び障害児入所支援施設での定期的な歯科検診実施率」の評価はBであった。計画策定時は51.5%であったのに対し最終評価は79.2%となっており、目標値の90%に届いていないが改善傾向にあり、取組を充実させている施設が増加していると考えられる。しかし、「実施していない」施設が20.8%となっていることから、今後は実施していない施設へのアプローチが求められる。また、実施していない理由としては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴うものが多かった。

「介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率」の評価はBであった。計画策定時は20.4%であったのに対し、最終評価は37.7%となっており、目標値の50%に届いていないが改善傾向にある。しかし、「実施していない」施設は、62.3%であり、実施しない理由として「必要ないから」と回答した施設が17.4%、「歯科医を知らない」が11.0%、「歯科医へ相談したが難しかった」が12.8%となっており、実施していない施設への取組の重要性を周知や歯科医療機関との調整が必要となっている。また、65.1%がその他と回答しているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に伴い実施できなかったと回答した施設も多かった。

施設における「口腔衛生管理」を実施することは、利用者の摂食嚥下機能の維持向上、栄養状態の改善等にもつながるものであり、歯科医師・歯科衛生士と多職種が連携して、口腔ケアや口腔リハビリを行っていくことが重要である。

3 離島・へき地地域の歯科医療・歯科保健の推進

目標	指標	対象年齢	ベースライン値 (H23年度)	中間評価 (H28年度)	最終評価時 (R4年度)	目標値 (R5年度)	評価
定期的な 歯科検 診・歯科 医療の推 進	歯科巡回診療に おける定期的な歯 科検診・歯科治療 の推進	口永良部 島・三島及 び十島	29.8%	26.2%	33.4%	35%	B

〔主な取組〕

	県
離島・へき地地 域の歯科医療	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科巡回診療車運営事業 ・ 離島歯科医療等体制充実事業

(健康増進課調べ)

〔評価結果の概要〕

歯科巡回診療における定期的な歯科検診・歯科治療の受診率について評価は B であった。計画策定時は 29.8%であったのに対し、中間評価は 26.2%、最終評価においては 33.4%となっており、増加傾向ではあるものの目標値の 35%に届いていない。

口永良部島・三島及び十島の各地区においては、無歯科医地区であることから、緊急時の歯科医療が提供できない。継続して巡回歯科診療時に口腔ケアや口腔管理の重要性について啓発していく必要がある。

4 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

目標	指標	対象年齢等	ベースライン値 (H2年度)	中間評価 (H29年度)	最終評価時 (R4年度)	国状況 (R4年度)	目標値 (R5年度)	評価
歯科口腔保健の推進体制の整備	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合	20歳以上	22.0%	32.7%	68.9%	55.1%	65%	A
	3歳児でむし歯がない者の割合が80%以上である市町村数	43市町村	3市町村 (H22年度)	13市町村 (H28年度)	33市町村 (R3年度)	—	22市町村	A
	健康増進法に基づく歯周疾患検診を実施する市町村数	43市町村	35市町村	43市町村	43市町村	—	43市町村	A
	在宅療養支援歯科診療所数	歯科診療所	71歯科診療所	157歯科診療所 (H30.4現在)	123歯科診療所 (R5.3現在)	—	140歯科診療所	B

〔主な取組〕

	県
基盤整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科口腔保健推進協議会 ・ 地域歯科口腔保健推進会議 ・ 行政歯科衛生士等研修会 ・ 地域歯科保健向上実践事業 ・ 8020運動推進員活動支援事業

(健康増進課調べ)

〔評価結果の概要〕

「過去1年間に歯科健診を受診した者の割合」の評価はAであった。計画策定時は22.0%であったのに対し、最終評価においては68.9%と目標を達成しており、県民の意識の高まり等が考えられる。しかし、今回の実態調査は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、歯科医院での個別受診者も対象に調査を実施しており、日頃通院をしている者も含まれることから、結果に偏りが生じている可能性がある。

また、35%の者は歯科健診の未受診となっていることから、今後さらに、定期歯科検診の必要性について啓発していく必要がある。

「3歳児でむし歯がない者の割合が80%以上である市町村数」の評価はAであった。各市町村において、妊婦歯科健診や乳児期から保護者への歯科保健指導やフッ化物塗布など積極的な取組が行われた等が改善につながったと考えられる。

「健康増進法に基づく歯周疾患検診を実施する市町村数」の評価はAであった。計画策定時は35市町村であったのに対し、中間評価時点で43市町村と目標に達成しており、すべての市町村で取組が進んでいる状況である。ただし、歯周病検診の受診率が約1割程度と低い現状であることから、今後は受診率向上に向けた取組が必要である。

「在宅療養支援歯科診療所数」の評価はBであった。計画策定時は71 歯科診療所であったのに対し、中間評価は157 歯科診療所、最終評価においては121 歯科診療所となっており、目標値の140 歯科診療所に届いていないが、改善傾向にある。

在宅療養歯科診療所については、H30年度の診療報酬改定に伴い施設基準の変更が行われたことにより、中間評価時点より減少している状況である。

在宅及び障害児（者）・高齢者等の社会福祉施設等の療養生活を支えるためにも、在宅療養支援歯科診療所と医科や訪問看護ステーション、ケアマネジャー等の介護関係者との多職種連携による在宅歯科医療の推進体制整備や取組の推進は重要となる。

鹿児島県歯科口腔保健計画の数値目標の評価一覧

ライフステージ	○歯科疾患の予防・口腔機能の維持向上									
	目標	指標	対象年齢	計画策定時状況	県H28年度 (中間評価時)	国H28年度	県R3年度(最終評価時)	国R2年度	目標値 (H34年度)	最終評価
①乳幼児期	健全な歯・口腔の育成	1歳6か月児でのむし歯のない者の割合	1歳6か月	95.7% **1 (H22年度)	97.4%	98.5%	99.0%	98.9%	99%	A
		3歳児でのむし歯のない者の割合	3歳	70.7% **1 (H22年度)	79.6%	84.2%	85.5%	88.2%	88%	B
	口腔機能の獲得	3歳児での不正咬合等が認められる者の割合	3歳	10.7% **1 (H22年度)	15.3%	12.3%(H27)	22.2%	14.7% (R元年)	8%	D
②学齢期 (高等学校等を含む)	口腔状態の向上	12歳児でのむし歯のない者の割合	12歳	44.7% **2 (H23年度)	57.7%	64.5%	59.1%(R3年度)	71.7%	65%	B
		中学生・高校生における歯肉に炎症所見を有する者の割合	中学1年生 高校1年生	23.1% **3 (H24年度)	27.8%	19.8%	23.4%	38.2% (R4年度)	20%	C
	目標	指標	対象年齢	計画策定時状況	県H29年度 (中間評価時)	国H28年度	県R4年度(最終評価時)	国R3年度	目標値 (H34年度)	最終評価
③成人期 (妊産婦を含む)	健全な口腔状態の維持	20歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	20～29歳	25.0% **4 (H23年度)	14.3% **9	—	44.4%	25.6%	15%	D
		40歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	40～49歳	47.1% **4 (H23年度)	36.0% **9	44.7%	64.1%	39.8%	25%	D
		40歳の未処置歯を有する者の割合	35～44歳	46.7% **4 (H23年度)	67.7% **9	35.1%	33.0%	27.6%	10%	B
		40歳で喪失歯のない者の割合	35～44歳	63.3% **4 (H23年度)	87.1% **9	73.4%	61.0% (欠損歯、欠損補綴歯なし)	76.4%	68%	C
目標	指標	対象年齢	計画策定時状況	県H29年度 (中間評価時)	国H28年度	県R4年度(最終評価時)	国R4年度	目標値 (H34年度)	最終評価	
④高齢期	歯の喪失防止	60歳の未処置歯を有する者の割合	55～64歳	36.4% **4 (H23年度)	60.0% **9	34.4%	34.8%	26.1%	10%	C
		60歳代における進行した歯周炎を有する者の割合	60～69歳	64.9% **4 (H23年度)	69.2% **9	59.4%	62.4%	51.4%	45%	C
		60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の割合	55～64歳	52.8% **4 (H23年度)	70.0% **9	74.4%	70.7%	80.9%	70%	A
		80歳で20歯以上自分の歯を有する者の割合	75～84歳	26.7% **4 (H23年度)	29.0% **9	51.2%	61.9%	51.6%	50%	A
	口腔機能の維持・向上	60歳代における咀嚼良好者の割合	60～69歳	75.5% **4 (H23年度)	64.1% **9	72.6%(H27)	85.9%	71.5% (R元年)	80%	A

○定期的に歯科検診又は歯科医療を受けることが困難な者に対する歯科口腔保健の推進

目標	指標	対象	計画策定時状況	県H29年度 (中間評価時)	国H28年度	県R4年度(最終評価時)	国R元年	目標値 (H34年度)	最終評価
定期的な歯科検診・歯科医療の推進	障害者支援施設及び障害児入所支援施設での定期的な歯科検診実施率	障害者(児)施設	51.5% **6 (H24年度)	64.3% **9	62.9%	79.2%	77.9%	90%	B
	介護老人福祉施設及び介護老人保健施設での定期的な歯科検診実施率	介護老人福祉施設及び介護老人保健施設	20.4% **6 (H24年度)	33.5% **9	19.0%	37.7%	33.4%	50%	B

○離島・へき地地域の歯科医療・歯科保健の推進

目標	指標	対象	計画策定時状況	県H28年度 (中間評価時)	国H28年度	県R4年度(最終評価時)	国R4年度	目標値 (H34年度)	最終評価
定期的な歯科検診・歯科医療の推進	歯科巡回診療における定期的な歯科検診・歯科治療の受診率	口永良部島、三島及び十島	29.8% **7 (H23年度)	26.2%	—	33.4%	—	35%	B

○歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

目標	指標	対象	計画策定時状況	県H29年度 (中間評価時)	国H28年度	県R4年度(最終評価時)	国R4年度	目標値 (H34年度)	最終評価
歯科口腔保健の推進体制の整備	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合	20歳以上	22.0% **5 (H23年度)	32.7% **9	52.9%	68.9%	55.1%	65%	A
	3歳児でむし歯がない者の割合が80%以上である市町村数	43市町村	3市町村 **1 (H22年度)	13市町村 (H28年度)	—	32市町村(R3年度)	—	22市町村	A
	健康増進法に基づく歯周疾患検診を実施する市町村数	43市町村	35市町村 **6 (H23年度)	43市町村	—	43市町村	—	43市町村	A
	在宅療養支援歯科診療所数	歯科診療所	71歯科診療所 (H23年度)**8	157歯科診療所 (H30.4現在)	—	123歯科診療所 (R5.3現在)	—	140歯科診療所	B

**1 鹿児島県の母子保健
**2 学校保健統計調査
**3 県教育庁保健体育課調べ 保健に関する実態調査
**4 県民の健康状況調査結果(歯科)
(R4年度: 県民の歯科口腔保健実態調査)

**5 県民の健康状況調査結果(生活習慣)
**6 健康増進課調べ
**7 保健医療福祉課調べ
**8 九州厚生局

(参考)

県民の歯科口腔保健実態調査の結果

令和4年度に実施した「県民の歯科口腔保健実態調査」の結果について集計及び分析を行った。策定時及び中間評価、最終評価について、データが確認できたものについては傾向検定（Cochran-Armitage trend test）を実施し分析を行った。

「傾向検定」

標本集団で観察された平均値や割合が、だんだん大きくなる、もしくはだんだん小さくなるという傾向（トレンド）が、母集団でもそうになっているかどうかを検定。

1 1歳6か月児の調査結果

(1) 各設問に係る調査結果

問1 歯みがき習慣について

歯みがき（仕上げみがき）をしていますか。

年度	毎日みがく	時々みがく	みがかない
H23	85.1%	14.0%	0.8%
H29	85.3%	13.3%	1.4%
R4	90.2%	9.2%	0.6%

毎日磨く場合の1日の回数

年度	1回	2回	3回以上
H23	46.5%	40.0%	13.5%
H29	42.2%	37.8%	20.0%
R4	34.4%	37.5%	28.1%

- 仕上げみがきの状況について、H23年度において85.1%と高い実施率であったが、R4においてはさらに向上し、90.2%となっている。「毎日みがく」と回答した者は年々有意に増加し、「時々みがく」と回答した者は年々有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。回数についても1日に1回磨くと回答した者は年々有意に減少する傾向にあり、3回以上磨くと回答した者が13.5%から28.1%へ上昇するなど、年々有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.01）。

問2 食事・間食について

2-1 間食（飲料を含む）の回数は、1日平均して何回くらいですか。

年度	0回	1回	2回	3回	4回以上
H23	1.7%	18.3%	51.4%	23.3%	5.3%
H29	3.1%	20.2%	50.0%	20.9%	5.8%
R4	1.5%	14.7%	56.4%	20.9%	6.5%

- 間食の状況については特に大きな変化を示していない。

2-2 哺乳ビンを生後どのくらいまで使っていましたか。

年度	1歳未満	1年～1年半	現在も使用している
H23	63.7%	21.7%	14.6%
H29	62.2%	20.8%	11.0%
R4	60.3%	27.8%	11.9%

2-3 ジュース・スポーツドリンク・乳酸菌飲料等をよく哺乳ビンで与えていましたか。

年度	よく与えていた	時々与えていた	与えなかった
H23	3.0%	11.6%	85.4%
H29	3.8%	8.8%	87.4%
R4	1.8%	7.6%	90.7%

- ・ 哺乳瓶の使用については、1歳6か月時点で使用している者が14.6%から11.9%へ減少している。また、哺乳瓶の内容について、ジュースやスポーツドリンク等を与えていない者は90.7%となっており、調査開始時より約5%の上昇となっている。「時々与えていた」と回答した者は年々有意に減少し（ p for trend < 0.05）、「与えなかった」と回答した者は年々有意に増加する傾向にあった（ p for trend < 0.01）。

2-4 よく噛めていますか。

年度	噛んでいる	まあ噛んでいる	あまり噛んでいない	わからない
R4	25.2%	54.7%	17.9%	2.2%

2-5 よく飲み込めていますか。

年度	問題なく飲み込める	飲み込めず吐き出すことがある	口に溜め込んだり、飲み込みに時間がかかることがある	わからない
R4	75.2%	17.8%	6.7%	0.3%

2-6 お子さんの噛む・飲み込む様子を注意してみていますか。

年度	注意してみている	まあまあみている	あまり注意してみていない
R4	56.2%	42.4%	2.4%

- ・ 摂食嚥下について、噛んでいる・まあ噛んでいると回答した者はあわせて79.9%であり、問題なく飲み込めると回答したものは75.2%となっている。
しかし、あまり噛んでいないと回答した者が17.9%、飲み込めず吐き出すことがあると回答した者が17.8%、口に溜め込んだり、飲み込みに時間がかかることがあると回答した者も6.7%おり、約2割の者に口腔機能に問題があることがうかがえる。

問3 歯科健診等について

3-1 お子さんは、かかりつけ歯科医院がありますか。

年度	ある	ない
H23	51.2%	48.8%
H29	45.6%	54.4%
R4	21.9%	78.1%

※R4の調査では、かかりつけ歯科医院の説明を記載
 <かかりつけ歯科医の定義>

かかりつけ歯科医院とは、生活背景や全身疾患・服薬状況等をふまえ、各ライフステージにおいて、むし歯や口腔の発達など様々な問題に対する治療や予防などの口腔管理を継続的に提供し、いつでも相談に応じてくれる身近な歯科医院

3-2 今後、歯科医院で定期健診を受けさせたいと思いますか。

年度	思う	思わない	わからない
H23	80.8%	1.2%	18.1%
H29	75.5%	2.8%	21.7%
R4	84.4%	0.9%	14.7%

- ・ かかりつけ歯科医の有無については、H23においては51.2%であったのに対し、R4では21.9%となっており、年々有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。今回の調査において設問にかかりつけ歯科医の定義を記載したため、自分が普段通院している歯科医院がかかりつけに該当するか悩んだため、値が低くなった可能性がある。

問4 歯科保健指導

4-1 仕上げみがき等の歯のみがき方の指導を受けたことがありますか。

年度	ある（乳幼児健診、歯科医院等）	ない
H23	40.3%	59.7%
H29	35.4%	61.7%
R4	21.9%	78.1%

4-2 おやつとの与え方の指導を受けたことがありますか。

年度	ある（乳幼児健診、歯科医院等）	ない
H23	40.3%	59.7%
H29	35.4%	61.7%
R4	53.4%	46.6%

4-3 噛み方や飲み込みなど口の機能についての指導を受けたことがありますか。

年度	ある（乳幼児健診，歯科医院等）	ない
H23	19.3%	80.7%
H29	23.0%	77.0%
R4	38.9%	61.1%

- ・ 保健指導について，おやつのお与え方の指導は 53.4%と約 5 割，噛み方や飲み込み等のについては 38.9%と約 4 割弱の者がいると回答している。「仕上げみがき等の歯のみがき方の指導を受けたことがありますか。」という質問に対して，「ある」と回答した者は年々有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。「噛み方や飲み込みなど口の機能についての指導を受けたことがありますか。」という質問に対して，「ある」と回答した者は年々有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.01）。

問5 お子さんの歯や口に関する困りごとがあった時に相談できる場所がありますか。

年度	親，きょうだいなど親族	行政（市町村役場など）	歯科医院	インターネットなど SNS	その他	ない
R4	65.4%	10.6%	43.1%	27.0%	2.9%	11.0%

- ・ 相談できることについて，11.0%の者がないと回答している。相談できる環境整備が必要となる。

○かかりつけ歯科医院有無とアンケート調査とのクロス集計

		問3-1 かかりつけ歯科医院がありますか。						
		ある		ない		合計		p値
		N	%	N	%	N	%	
問2-6	お子さんの噛む・飲み込む様子を注意して見えていますか。							
	注意している	94	(63.9)	275	(52.7)	369	(55.2)	
	まあまあみている	48	(32.7)	236	(45.2)	284	(42.5)	
	あまり注意して見ていない	5	(3.4)	11	(2.1)	16	(2.4)	0.021
問3-2	今後，歯科医院で定期健診を受けさせたいと思いますか。							
	思う	142	(96.6)	420	(80.9)	562	(84.4)	
	思わない	0	(0.0)	6	(1.2)	6	(0.9)	
	わからない	5	(3.4)	93	(17.9)	98	(14.7)	<0.001

- ・ 「お子さんの噛む・飲み込む様子を注意して見えていますか。」の項目において，かかりつけ歯科医がある群において注意している傾向がある。
- ・ かかりつけ医があると回答した方が，定期歯科検診を受けさせたいと思うと回答した群が有意に高かった。

(2) 1歳6か月児の調査結果の考察

歯みがき習慣について、「毎日歯を磨く者」や「1日に3回以上歯を磨く者」は年々有意に増加する傾向にあった。また、「ジュースやスポーツドリンク・乳酸菌飲料を哺乳瓶で与えていた者」も減少傾向にあり、適切な歯科保健知識・行動が保護者に定着してきているものと考えられる。一方で、かかりつけ歯科医院がある者は減少傾向にあった。

これは、R4年度からアンケート用紙にかかりつけ歯科医の定義を追記したことや、新型コロナウイルス感染症の流行により歯科医院への通院が減少した¹⁾ことが原因とされる。特にコロナによる影響は歯科保健指導にも影響を及ぼしており、仕上げみがき等の歯のみがき方の指導を受けたことがある者はR4年度で最低値となった。乳幼児健診においては、乳幼児への口腔内診察に加えて保護者へのブラッシング指導が実施されるが、コロナ下においてはブラッシングによる飛沫感染を予防するため、指導を見送るケースが各自治体で散見された。鹿児島県においても同様であり、ブラッシング指導を実施する機会が著しく減少したため本結果に至ったと推測される。

しかしながら、「今後、歯科医院で定期健診を受けさせたいと思う者」は増加傾向にあるため、新型コロナウイルス感染症の収束と共に、かかりつけ歯科医院への受診が増え、ブラッシング指導を受ける機会も増加すると考えられる。

「口腔機能に関する指導を受けたことがある者」は年々増加する傾向にあった。H30年度の診療報酬改定により小児における口腔機能発達不全症の病名が新設された背景から²⁾、乳幼児への口腔機能に関する指導の重要性が高まり、指導内容に変化が生じたと考えられる。不正咬合の予防ならびに正常な口腔機能獲得のため、今後も口腔機能に関する指導の継続が望まれる。

【参考文献】

1. 一般社団法人日本私立歯科大学協会. 「歯科診療」および「歯科医師」に関する第5回意識調査. <https://www.shikadaikyo.or.jp/wp-content/uploads/pdf/ishikichousa-5.pdf> (2021年7月4日アクセス可能).
2. 日本歯科医学会. 口腔機能発達不全症に関する基本的な考え方 (平成30年3月). http://www.jads.jp/basic/pdf/document_03.pdf (2023年7月4日アクセス可能).

2 3歳児の調査結果

(1) 各設問に係る調査結果

問1 歯みがき習慣について

1-1 お子さんは歯みがきをしていますか。

年度	毎日磨く	時々みがく	磨かない
H23	96.9%	2.9%	0.2%
H29	96.2%	3.7%	0.1%
R4	97.4%	2.6%	0.0%

毎日みがく場合の1日の回数

年度	1回	2回	3回以上
H23	22.5%	46.2%	31.3%
H29	14.6%	47.4%	38.0%
R4	9.2%	45.2%	45.6%

1-2 保護者が仕上げみがきをしていますか。

年度	ほとんどしている	時々している	ほとんどしていない
H23	85.1%	14.1%	0.8%
H29	83.0%	15.8%	1.2%
R4	84.9%	14.7%	0.4%

1-3 仕上げみがきをしていない主な理由はなんですか。(重複回答)

年度	時間の余裕がない	子どもが嫌がる	面倒くさい	方法を知らない	その他
H23	7.8%	5.3%	1.0%	0.0%	0.8%
H29	48.4%	37.4%	1.3%	0.0%	12.9%
R4	49.1%	41.5%	0.9%	0.0%	8.5%

- ・ 歯みがき実施について、調査開始時から高い水準で推移しており、R4 においては97.4%となっている。回数は有意に増加傾向にあり、3回以上磨くものの割合が、H23の31.3%からR4の45.6%と約1.5倍になっている(p for trend < 0.01)。
- ・ 仕上げみがきについては値にほぼ変化なく、85%程度の者において実施されている。

問2 食事・間食について

2-1 間食(飲料を含む)の回数は、1日平均して何回くらいですか。

年度	0回	1回	2回	3回	4回以上
H23	1.7%	23.8%	51.1%	19.2%	4.2%
H29	1.4%	25.3%	49.2%	19.6%	4.5%
R4	0.4%	20.5%	54.7%	20.9%	3.6%

- ・ 間食の回数については1日に2回がもっとも多く、54.7%であり、H23年度から大きな変化は認められない。「0回」と回答した者が有意に減少する傾向にあった (p for trend < 0.05)。

2-2 繊維質の多いものや、噛みごたえのあるものを食べさせていますか。

年度	よく食べさせている	時々食べさせている	あまり食べさせていない
H23	26.8%	65.3%	7.9%
H29	26.3%	62.5%	11.2%
R4	29.4%	59.7%	10.9%

2-3 よく噛めていますか。

年度	噛んでいる	まあ噛んでいる	あまり噛んでいない	わからない
R4	41.7%	49.0%	8.8%	0.6%

2-4 よく飲み込めていますか。

年度	問題なく飲み込める	飲み込めず吐き出すことがある	口に溜め込んだり、飲み込みに時間がかかることがある	わからない
R4	78.1%	14.1%	7.5%	0.3%

2-5 お子さんの噛む・飲み込む様子を注意してみていますか。

年度	注意してみている	まあまあみている	あまりみしていない
R4	36.9%	55.7%	7.4%

- ・ 噛みごたえのある食品について、よく食べさせていると回答した者は26.8%から29.4%に微増しているが、あまり食べさせていないと回答した者も7.9%から10.9%と微増している。「時々食べさせている」と回答した者は有意に減少する傾向にあった (p for trend < 0.05)。

なお、「あまり噛んでいない」、「口に溜め込んだり飲み込みに時間がかかる」と約1割弱の者が回答している。

問3 3歳までにフッ化物の塗布を受けたことがありますか。

年度	受けたことがある	受けたことがない	わからない
H23	90.6%	7.1%	2.3%
H29	88.1%	8.2%	3.7%
R4	82.7%	9.1%	8.2%

- ・ 3歳までにフッ化物塗布を「受けたことがある」と回答した者は、H23年度では90.6%であったのに対し、R4年度では82.7%と年々減少する傾向にあった (p for trend < 0.01)。また、「わからない」と回答した者はH23年度では2.3%であるのに対して、R4年度では8.2%と年々有意に増加する傾向にあった (p for trend < 0.01)。

問4 歯科健診等

4-1 お子さんは、かかりつけ歯科医院がありますか。

年度	決めている	決めていない
H23	62.5%	37.5%
H29	59.6%	40.4%
R4	42.5%	57.5%

- ・ かかりつけ歯科医の有無については、H23においては62.5%であったのに対し、R4では42.5%と年々有意に減少する傾向にあり、「決めていない」と回答した者は年々増有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.01）。今回の調査において設問にかかりつけ歯科の定義を記載したため、自分が普段通院している歯科医院がかかりつけに該当するか悩んだため値が低くなった可能性がある。

4-2 現在、定期的に歯科健診を受けに歯科医院を受診していますか。

年度	受診している	受診していない
H23	35.0%	65.0%
H29	34.8%	65.2%
R4	30.8%	69.2%

4-3 「受診していない」方へ、今後、歯科医院で定期健診を受けさせたいと思いますか。

年度	思う	思わない	わからない
R4	36.9%	55.7%	7.4%

- ・ 定期的な歯科受診については35%から30.8%へ減少している。新型コロナが影響し、受診を控えた可能性はあるが、今後の推移を注視する必要がある。

問5 歯科保健指導

5-1 仕上げみがき等の歯みがき指導を受けたことがありますか。

年度	ある（乳幼児健診，歯科医院等）	ない
H23	88.3%	11.7%
H29	87.9%	12.1%
R4	82.9%	17.1%

5-2 おやつとの与え方の指導を受けたことがありますか。

年度	ある（乳幼児健診，歯科医院等）	ない
H23	52.1%	47.9%
H29	42.1%	57.9%
R4	71.9%	28.1%

5-3 噛み方や飲み込みなど口の機能についての指導を受けたことがありますか。

年度	ある	ない
H23	25.1%	74.9%
H29	22.2%	77.8%
R4	51.3%	48.7%

- ・ 仕上げみがきの指導について、「ある」と回答した者が H23 年度は 88.3%であったが、R4 年度は 82.9%と年々有意に減少し、受けたことがないと回答した者が 11.7%から 17.1%と年々有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.01）。おやつとの与え方についての指導は 52.1%から 71.9%へ、また、噛み方や飲み込み方等についての指導は 25.1%から 51.3%へ大幅に増加する傾向にあった（p for trend < 0.01）。よく噛めない子供たちへの認識が向上している可能性もある。

問6 お子さんの歯や口に関する困りごとがあった時に相談できるところがありますか。

年度	親、きょうだいなど親族	行政（市町村役場など）	歯科医院	インターネットなど SNS	その他	ない
R4	60.4%	10.6%	52.4%	25.0%	3.3%	7.5%

- ・ 相談先として、親、きょうだいなどの親族が 60.4%と最も多かったが、歯科医院も 52.4%となっている。

(2) 3 歳児の調査結果の考察

「かかりつけ歯科がある者」はフッ化物塗布を受けた経験や定期歯科受診している者が多かった。ほとんどの市町村においては、2 歳児および 2 歳 6 か月児の歯科検診、歯科指導に併せて、フッ化物歯面塗布を実施しており、これらの行政サービスが保護者の意識の高まりに繋がっている可能性が考えられる。

間食回数については、有意な変化はなかったが、頻回の間食は唾液の PH を低下させ、口腔内にむし歯が進行しやすい環境を形成する。1 歳 6 か月時点での食習慣は 3 歳時点でも同様の習慣を有しているとの報告もあり、早期の間食指導が望まれる^[1]。

今回の調査で、「あまり噛んでいない」、「口に溜め込んだり飲み込みに時間がかかる」と約 1 割弱の者が回答している状況があり、一定数、口腔機能に問題を抱える傾向にあることがうかがえる。3 歳児期は、乳歯が 20 本生えそろそろ時期であることから、食べること、噛むことなどの口腔機能の発達をしっかりと促す指導が重要である。

幼児期の歯科口腔保健に対する意識付けは、保護者も含めた家庭全体のオーラルヘルスリテラシーを向上させ、良好な歯科保健行動を形成する。よって、乳幼児の時期にかかりつけ歯科を獲得し、青年期における健やかな口腔発育の土台とすべきである。

【参考文献】

1. 会退, 友., et al., 離乳期の子どもの間食に関する縦断研究
——離乳期の菓子類の摂取と幼児期の間食——. 栄養学雑誌, 2010. 68(1): p. 8-14.

3 中学1年生の調査結果

(1) 各設問に係る調査結果

問1 歯みがきをしていますか。

年度	毎日みがく	時々みがく	みがかない
H23	91.9%	7.9%	0.2%
H29	92.9%	7.0%	0.1%
R4	95.3%	4.6%	0.1%

- ・ 歯みがきの実施についてはH23年度からR4において特に大きな変化は認められない。「毎日みがく」と回答した者はH23年度において91.9%であったが、R4年度には95.3%と有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.05）。また、「時々みがく」と回答した者はH23年度において7.9%であったが、R4年度には4.6%と有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。

毎日みがく場合の回数

年度	1回	2回	3回以上
H23	5.1%	23.7%	71.1%
H29	3.1%	21.6%	75.3%
R4	3.6%	34.5%	61.9%

- ・ 毎日みがく場合の回数として、「2回」と回答した者はH23年度において23.7%であったが、R4年度には34.5%と有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.05）。また、「3回以上」と回答した者はH23年度において71.1%であったが、R4年度には61.9%と有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。

問2 過去1年間に歯みがきの方法を教わったことがありますか。

年度	ある	ない
H23	78.1%	21.9%
H29	81.9%	18.1%
R4	78.4%	21.6%

2-1 「ある」と答えた人にお聞きします。どこで教わりましたか。（複数回答）

年度	学校	歯科医院	その他
H23	58.1%	32.1%	1.4%
H29	61.6%	30.4%	0.9%
R4	54.7%	35.3%	1.5%

- ・ 「歯科医院」でみがき方を教わったと回答した者はH23年度において32.1%であったが、R4年度においては35.3%と有意に増加する傾向にあった（p for trend < 0.05）。

問3 間食（お菓子やジュース・スポーツ飲料等）の量や内容等むし歯予防を意識して食べていますか。

年度	意識している	意識していない
H4	39.6%	60.4%

- ・ 間食について、むし歯予防を意識して食べている者は 39.6%であり、約 6 割の者は意識していない結果となっている。

問4 食事はよく噛まずに水やお茶などで流し込むような食べ方をしていますか。

年度	している	どちらかという している	どちらかという していない	していない
H23	3.7%	20.3%		76.1%
H29	2.1%	12.8%	28.4%	56.8%
R4	4.8%	14.0%	33.1%	48.2%

- ・ 食事を水やお茶で流し込むような食べ方をしている者は、R4年度において「している」と「どちらかというとしている」を合わせて 18.8%となっている。「どちらかというとしている」と回答した者は H23 年度において 20.3%であったが、R4 年度は 14.0%と有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。「していない」と回答した者は H23 年度において 76.1%であったが、R4 年度は 48.2%と有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。

問5 かかりつけの歯科医院がありますか。

年度	ある	ない
H23	67.2%	32.8%
H29	68.4%	31.6%
R4	58.4%	41.6%

- ・ かかりつけの歯科医院が「ある」と回答した者は H23 年度において 67.2%であったが、R4 年度は 58.4%と有意に減少する傾向にあった（p for trend < 0.01）。

問6 歯科医院で年1回以上、定期健診（定期管理）を受けていますか。

年度	受けている	受けていない
H23	22.0%	78.0%
H29	32.3%	67.7%
R4	53.2%	46.8%

- ・ 定期健診を受けている者については、H23 は 22.0%であったのに対し、R4 は 53.2%と有意な上昇が認められた（p for trend < 0.01）。

問7 現在、口や顎で気になることはありますか。

年度	むし歯がある	歯ぐきの腫れや出血などがある	口臭がする	歯並びが気になる	口を開けると顎から音がする、痛みがある	その他	気になるところはない
R4	9.0%	5.1%	9.1%	24.0%	3.1%	3.3%	58.9%

問8 「フッ化物（フッ素）」ということばを聞いたことがありますか。

年度	ある	ない
H23	60.8%	39.2%
H29	72.7%	27.3%
R4	84.4%	15.6%

8-1 「ある」と答えた人におたずねします。フッ化物はむし歯予防に効果があることを知っていますか。

年度	知っている	知らない
H23	73.1%	26.9%
H29	74.4%	25.6%
R4	81.8%	18.2%

- ・ フッ化物について、用語や効果の認識はともに H23 に比べると有意に増加している傾向にあった (p for trend < 0.01)。

問9 むし歯を予防する方法を知っていますか。

年度	だいたい知っている	少し知っている	知らない
H23	32.0%	58.2%	9.8%
H29	35.1%	55.2%	9.7%
R4	47.4%	47.4%	5.2%

- ・ むし歯予防について、47.4%の者がだいたい知っていると回答しており、R4 年度に「だいたい知っている」と回答した者は H23 年度と比べて有意に増加する傾向にあった。(p for trend < 0.01) 一方で、「少し知っている」「知らない」と回答した者は H23 年度と比べて有意に減少する傾向にあった (p for trend < 0.01)。

問10 歯周病（歯ぐきの病気）を予防する方法を知っていますか。

年度	だいたい知っている	少し知っている	知らない
H23	10.9%	33.1%	55.9%
H29	14.1%	38.1%	47.8%
R4	17.8%	40.8%	41.4%

- ・ 歯周病の予防については、R4 年度は「だいたい知っている」が 17.8%と低い値となっている。歯肉炎は中学生時にも発症するため、早期の指導が必要となり、認識を向上させる必要がある。「だいたい知っている」「少し知っている」と回答し

た者は H23 年度と比べて有意に増加する傾向にあった (p for trend < 0.01) 。一方で「知らない」と回答した者は H23 年度と比べて有意に減少する傾向にあった (p for trend < 0.01) 。

問 11 よく噛むことは、肥満の予防になることを知っていますか。

年度	知っている	聞いたことはあるが よく知らない	知らない
H23	48.4%	24.9%	26.3%
H29	40.1%	27.4%	32.6%
R4	37.8%	33.3%	29.0%

問 12 「8020運動」を知っていますか。

年度	知っている	聞いたことがあるが よく知らない	知らない
H23	25.8%	18.4%	55.8%
H29	30.1%	14.3%	55.6%
R4	22.4%	16.0%	61.6%

問 13 「噛ミング30運動」を知っていますか。

年度	知っている	聞いたことがあるが よく知らない	知らない
H29	9.0%	15.7%	75.9%
R4	6.5%	12.5%	81.0%

- よく噛むことと肥満との関連, 8020 運動, 噛ミング 30 の認識についてはいずれも知っているとは回答した者は減少している。問 11「よく噛むことは、肥満の予防になることを知っていますか。」という質問において、「知っている」と回答した者は H23 年度と比べて有意に減少する傾向にあり、「聞いたことはあるがよく知らない」と回答した者は H23 年度と比べて有意に増加する傾向にあった (p for trend < 0.01) 。また, 問 12「「8020運動」を知っていますか。」という質問において、「知らない」と回答した者は H23 年度と比べて有意に増加する傾向にあった (p for trend < 0.01) 。
- 中学生においては肥満や歯の喪失等はなじみが薄いことではあるが, 将来の口や体の健康のため歯の維持や食事と体との関係などについて知識を持っていることが望ましい。

○ローレル指数との各項目のクロス集計

		普通(115-145未満)		やせ型～やせ気味(115未満)		肥満気味～肥満(145以上)		合計		
		N	%	N	%	N	%	N	%	
問3 間食（お菓子やジュース・スポーツ飲料等）の量や内容等むし歯予防を意識して食べていますか。	意識している	192	39.7%	141	37.7%	57	46.0%	390	39.7%	0.265
	意識していない	292	60.3%	233	62.3%	67	54.0%	592	60.3%	
問4 よく噛まずに水やお茶などで流し込むような食べ方をしていますか。	している	19	3.9%	14	3.7%	13	10.5%	46	4.7%	<0.001
	どちらかという	83	17.0%	33	8.8%	18	14.5%	134	13.6%	
	している	161	33.1%	124	33.2%	41	33.1%	326	33.1%	
	していない	224	46.0%	203	54.3%	52	41.9%	479	48.6%	
問11 よくかむことは、肥満（ひまん）の予防になることを知っていますか。	知っている	186	38.3%	137	36.7%	52	42.3%	375	38.2%	0.851
	聞いたことはあるがよく知らない	159	32.7%	129	34.6%	38	30.9%	326	33.2%	
	知らない	141	29.0%	107	28.7%	33	26.8%	281	28.6%	

- ・ 間食・流し込む食べ方・咀嚼と肥満との関連について分析したところ、肥満傾向を示すものにおいて「お茶や水で流し込む食べ方をしている割合」が高いことが認められた。肥満者の減少のためにも食べ方についての指導を学校等で行うことが望ましい。

○定期歯科健診と各項目のクロス集計

		問6 歯科医院で年1回以上、定期健診（定期管理）を受けていますか。						p値
		受けている		受けていない		合計		
		N	%	N	%	N	%	
問2 過去1年間に歯みがき（ブラッシング）の方法を教わったことがありますか。	ある	452	(83.4)	344	(72.6)	796	(78.3)	<0.001
	ない	90	(16.6)	130	(27.4)	220	(21.7)	
問3 間食（お菓子やジュース・スポーツ飲料等）の量や内容等むし歯予防を意識して食べていますか。	意識している	249	(46.2)	156	(32.9)	405	(40.0)	<0.001
	意識していない	290	(53.8)	318	(67.1)	608	(60.0)	
問5 かかりつけの歯科医院がありますか。	ある	415	(77.6)	172	(36.5)	587	(58.3)	<0.001
	ない	120	(22.4)	299	(63.5)	419	(41.7)	
問8 「フッ化物（フッ素）」という言葉を知っていますか。	ある	486	(90.2)	371	(78.4)	857	(84.7)	<0.001
	ない	53	(9.8)	102	(21.6)	155	(15.3)	
問8 1 フッ化物はむし歯予防に効果があることを知っていますか。	知っている	434	(88.2)	290	(74.7)	724	(82.3)	<0.001
	知らない	58	(11.8)	98	(25.3)	156	(17.7)	
問9 むし歯を予防する方法を知っていますか	だいたい知っている	293	(54.6)	190	(40.0)	483	(47.7)	<0.001
	少し知っている	228	(42.5)	252	(53.1)	480	(47.4)	
	知らない	16	(3.0)	33	(6.9)	49	(4.8)	
問10 歯周病（歯ぐきの病気）を予防する方法を知っていますか。	だいたい知っている	122	(22.6)	59	(12.5)	181	(17.9)	<0.001
	少し知っている	224	(41.5)	189	(40.0)	413	(40.8)	
	知らない	194	(35.9)	224	(47.5)	418	(41.3)	

(2) 12 歳児の調査結果の考察

「定期健診を受けている者」は、そうでない者と比較して良好な歯みがき習慣が身に付いている者が多く、フッ化物に対する知識やむし歯及び歯周病の予防方法などの知識を有している割合が多かった。成人男性を対象とした、かかりつけ歯科と定期健診の有無に関する研究では、かかりつけ歯科を持ち定期健診を受けている者ほど良好な歯科保健行動を実践すると述べており、本結果においても従来の研究結果を指示する形となった^[1]。

口腔内に関する自覚症状に関しては、「定期健診を受けている者」は「むし歯がある」と回答した者が多かった。中学生における「歯に穴があいている」「歯が折れている」といった自覚症状は、「歯ブラシに血がついている」のような歯肉炎症状よりも歯科受診意識が高いという報告がある^[2]。H28 年度歯科疾患実態調査においても、「歯や口の状態」に関して、5～14 歳の者は「歯が痛い、しみる」と回答した者が 13.6%と最も多く、むし歯をきっかけにした歯科受診が定期健診に繋がった可能性がある^{*1}。

一方で、「健診を受けていない者」はむし歯の存在に気がついていないという可能性についても考慮する必要がある。「かかりつけ歯科医院がある者」は「歯並びが気になる」と回答した者の割合が有意に少なかった。これは自覚的な歯並びに関する疑問について、かかりつけ歯科での相談や治療により主訴が改善された結果であると考察することができる。しかしながら、本項目においては定期歯科受診の有無において差を認めておらず、更なる検討が必要であると考えられる。

また、今回の実態調査で、肥満傾向を示す者において、食事の食べ方について問題があることが分かった。小・中学生を対象にした研究では、噛まない子どもは、噛む子どもに比べ、肥満傾向の者が多いと報告されている^[3]。十分な咀嚼は満腹中枢を刺激し、適正体重の維持に貢献する。歯科医院での咀嚼指導は適切な咀嚼習慣を育み、児童の肥満予防に繋がる可能性がある。

結論として、「定期歯科健診を受けている者」は良好な歯科保健行動を有する者が多く、中学生におけるかかりつけ歯科を持つことや定期歯科健診受診の向上は、適切な歯科保健行動を通じた歯科疾患予防に有効である可能性が示唆された。

併せて、「よく噛んで食べる」という基本的な指導を行うことで、成人期の肥満予防等の生活習慣病予防につながると考えられる。

参考文献

*1 厚生労働省：平成 28 年歯科疾患実態調査。

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-28.html> (2023 年 6 月 6 日アクセス)。

1. 石井, 瑞. and 武. 末高, 初めて歯科保健事業に参加した成人男性における口腔保健状況の検討 : 第一報かかりつけ歯科医の影響について. 口腔衛生学会雑誌, 2007. 57(5): p. 650-661.
2. 島津, 篤., et al., 中学生の種々の疾患や自覚症状に対する意識と受診行動について. 口腔衛生学会雑誌, 2013. 63(5): p. 420-427.
3. 井邊, 有. and 利. 赤松, 小・中学生の学年区分別にみた咀嚼習慣と肥満との関連. 栄養学雑誌, 2021. 79(5): p. 286-292.

4 成人（20歳以上）の調査結果

(1) 各設問に係る調査結果

問1 歯みがき習慣について

1-1 歯みがきをしていますか。

年度	毎日みがく	時々みがく	みがかない
H23	92.7%	6.1%	1.2%
H29	95.7%	4.0%	0.3%
R4	97.8%	1.9%	0.3%

毎日みがく場合の1日の回数

年度	1回	2回	3回以上
H23	27.8%	34.9%	37.0%
H29	20.5%	39.0%	40.3%
R4	12.5%	39.2%	48.4%

- ・ 歯みがきの習慣については調査のたびにわずかではあるが、「毎日磨く」と回答した者が年々有意に増加し（p for trend<0.01）、「時々みがく」「みがかない」と回答した者は有意に減少する傾向にあった（p for trend<0.05）。「毎日みがく場合の1日の回数」については、「1回」と回答した者が経年的に減少し、「3回」と回答した者が有意に増加する傾向にあった（p for trend<0.01）。

1-2 デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っていますか。

年度	使っている	使っていない
H23	32.9%	67.0%
H29	51.2%	48.8%
R4	65.0%	35.0%

- ・ デンタルフロスや歯間ブラシの使用については35%の者が使用していないと回答している。設問が異なるので一概には言えないが、「デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っている者」は経年的に有意な増加傾向がみられた（p for trend<0.01）。

1-3 過去1年間に歯のみがき方の指導を受けたことがありますか。

年度	ある(学校, 市町村, 保健所等)	ない
H23	64.7%	32.4%
H29	40.9%	59.1%
R4	63.3%	36.7%

- ・ 保健指導の経験については特にH23年度から変化を認めない。

問2 歯科健診等について

2-1 この1年間に歯科健診を受けたことがありますか。

* H23年度は「歯科健診のみ」、H29年度は「定期健診の有無」で代替評価。

年度	受けた	受けていない
H23	16.8%	83.2%
H29	32.6%	67.4%
R4	68.9%	31.1%

2-2 歯科健診を受けた理由

年度	定期的に受けているから	歯科治療の時にチェック	職場や保健センター等で受ける機会があったから	その他
R4	63.4%	31.4%	1.5%	3.7%

- ・ 歯科健診について、約7割の者が受けたと回答している。設問が異なるので一概には言えないが、「この1年間に歯科健診を受けたことがある者」は経年的に有意な増加傾向がみられた (p for trend<0.01)。

2-3 かかりつけ歯科医院を決めていますか。

年度	決めている	決めていない
H23	69.9%	30.1%
H29	74.9%	25.1%
R4	89.3%	10.7%

- ・ かかりつけ歯科医を決めていると回答した者は、H23は69.9%であったが、R4は89.3%となっており経年的に有意な増加が認められる (p for trend<0.01)。ただし、今回の調査から歯科医院での診査となっており、アンケート調査の一部が現在歯科医院を受診している者であることから、値が高くなった可能性もある。

問3 歯周病の予防方法を知っていますか。

年度	だいたい知っている	少し知っている	知らない
H23	32.1%	38.9%	29.1%
H29	35.2%	44.8%	19.9%
R4	37.3%	46.6%	16.1%

- ・ 歯周病の予防方法についての知識は、約4割がだいたい知っていると回答した。「少し知っている」と回答した者が経年的に有意に増加し、「知らない」と回答した者は有意に減少する傾向にあった (p for trend<0.01)。

問4 喫煙と歯周病は関係があると思いますか。

年度	思う	思わない	わからない
R4	68.6%	2.5%	28.9%

- ・ 喫煙と歯周病との関連について、約 3 割がわからないと回答しており、今後さらなる普及啓発が必要である。

問 5 歯周病と関連のある病気はどれだと思いますか。

1. 動脈硬化
2. 狭心症・心筋梗塞などの心臓の病気
3. 糖尿病
4. 骨粗しょう症
5. 肺炎
6. 低体重児出産や早産
7. わからない

年度	1	2	3	4	5	6	7
H23	17.7%	23.7%	22.6%	11.5%	10.5%	8.2%	47.9%
H29	23.1%	37.0%	25.3%	10.4%	16.6%	9.8%	38.5%
R4	31.1%	45.0%	40.2%	14.3%	19.7%	12.0%	32.6%

- ・ 歯周病と全身との関連について、いずれの疾患等においても H23 年度よりは認知が進んでいる。骨粗しょう症を除いた全ての項目において、有意な増加傾向が認められた (p for trend < 0.01)。低体重児出産や早産を除いたいずれの疾患においても高齢者がり患しやすい疾患ではあるが、若年のころから正しく認識して予防に努める必要があることから、高齢者だけでなく若年者においてもさらなる普及啓発が必要である。また、低体重児出産や早産についても母親教室や妊婦健診等での普及啓発が必要である。

問 6 「8020 運動」の意味を知っていますか。

年度	知っている	聞いたことはあるが意味は知らない	聞いたことがない
H23	49.6%	11.7%	38.7%
H29	57.4%	10.8%	31.8%
R4	64.0%	11.6%	24.5%

- ・ 8020 運動の認知について、「知っている」と回答した者は H23 は 49.6%であったのに対し R4 は 64%と有意に増加し、「聞いたことがない」と回答した者は年々有意に減少する傾向にあった (p for trend < 0.01)。歯科医院での調査者が含まれているとはいえ、全体的に認知がさらに進んでいることがうかがえる。

問 7 「噛ミング 30 運動」の意味を知っていますか。

年度	知っている	聞いたことはあるが意味は知らない	聞いたことがない
H29	24.7%	13.0%	62.3%
R4	18.7%	17.6%	63.7%

- ・ 噛ミング 30 運動について、「知っている」と回答した者は H23 において 24.7%であったのに対し、R4 は 18.7%と有意に減少し、「聞いたことはあるが意味は知らない」と回答した者は有意に増加した ($p < 0.05$)。咀嚼については認知症との関連やオーラルフレイルとの関連等、様々な影響をもたらすので、さらなる普及啓発が必要である。

問8 「オーラルフレイル」の意味を知っていますか。

年度	知っている	聞いたことはあるが意味は知らない	聞いたことがない
R4	8.4%	22.6%	69.0%

- ・ オーラルフレイルの意味については知っていると回答した者が 8.4%となっており、認知されていないことがうかがえる。若年者のみならず高齢者も含めて全年齢で認知が進んでおらず、今後さらなる普及啓発が必要となる。

問9 食べ物を食べる時の状況について

9-1 何でも噛んで食べることができますか。

年度	はい	いいえ
H23	84.7%	15.3%
H29	87.4%	12.6%
R4	90.2%	9.8%

- ・ 何でも噛んで食べることができる者について、H23は84.7%であったのに対し、R4は90.2%と有意に向上している（ p for trend < 0.01）。

9-2 半年前に比べて硬いものが食べにくくなりましたか。

年度	はい	いいえ
R4	23.4%	76.6%

9-3 お茶や汁物等でむせることがありますか。

年度	はい	いいえ
R4	15.8%	84.2%

9-4 口の渇きが気になりますか。

年度	はい	いいえ
R4	26.7%	73.3%

- ・ 半年前に比べて硬いものが食べにくくなったものは23.4%、お茶や汁物でむせることがあるものは15.8%、口の渇きが気になるものは26.7%となっている。いずれの調査項目もオーラルフレイルと関連があり、今後の推移をみる必要がある。

9-5 よく噛んだり、スムーズな飲み込みなどの口の機能を保つための「お口の体操」や「唾液腺マッサージ」を知っていますか。

年度	知っている、実行している	知っているが、実行していない	知らない
R4	10.3%	38.7%	51.0%

- ・ 口腔機能のための運動について、認知している者は約半数であるが、実際に実施している者は1割程度となっている。今後、実際に行動に移すことができるような

普及啓発が求められる。

問 10 むし歯や歯周病などが、がんや心臓病などの治療に影響する可能性があることを知っていますか。

年度	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない
R4	39.8%	32.7%	27.4%

- ・ むし歯や歯周病とがんや心臓病等の治療との関連について、知っているとは回答したものは4割であり、今後さらなる普及啓発が必要である。

問 11 あなたは、寝たきりの方がご自宅で歯科治療を受ける「訪問歯科診療」があることを知っていますか。

年度	知っている	聞いたことはあるが内容は知らない	知らない
H23	29.0%	21.3%	49.6%
H29	41.2%	21.0%	37.8%
R4	41.8%	22.8%	35.4%

- ・ 訪問歯科診療について、H23は29%であったのに対しR4は41.8%と有意に増加しており、認知の向上が認められる（p for trend<0.01）。

○進行した歯周病とアンケート項目との関連

		進行した歯周病の有無				合計	p値	
		なし		あり				
		N	%	N	%			
問1-1_回数	1回	16	(8.3)	46	(13.5)	62	(11.7)	0.041
	2回	65	(33.9)	133	(39.1)	198	(37.2)	
	3回以上	111	(57.8)	161	(47.4)	272	(51.1)	
問1-2 デンタルフロス（糸ようじ）や歯間ブラシを使っていますか。	使っている	143	(71.5)	249	(71.6)	392	(71.5)	0.990
	使っていない	57	(28.5)	99	(28.4)	156	(28.5)	
問1-3 過去1年間に歯の磨き方の指導を受けたことがありますか。	ある	129	(64.5)	262	(75.9)	391	(71.7)	0.004
	ない	71	(35.5)	83	(24.1)	154	(28.3)	
問4 喫煙と歯周病は関係があると思いますか。	思う	156	(78.0)	234	(67.8)	390	(71.6)	0.024
	思わない	4	(2.0)	5	(1.4)	9	(1.7)	
	わからない	40	(20.0)	106	(30.7)	146	(26.8)	
問8 「オーラルフレイル」の意味を知っていますか。	知っている	20	(10.1)	31	(9.0)	51	(9.4)	0.038
	聞いたことはあるが意味は知らない	59	(29.8)	71	(20.6)	130	(24.0)	
	聞いたことがない	119	(60.1)	242	(70.3)	361	(66.6)	
問11 あなたは、寝たきりの方がご自宅で歯科治療を受ける「訪問歯科診療」があることを知っていますか。	知っている	106	(53.0)	144	(41.6)	250	(45.8)	0.032
	聞いたことはあるが内容は知らない	37	(18.5)	86	(24.9)	123	(22.5)	
	知らない	57	(28.5)	116	(33.5)	173	(31.7)	

- ・ 歯みがき回数の少ない者は、進行した歯周病を有する傾向にあった。また、定期歯科健診を受診している者が進行した歯周病を有する傾向にあったが、

今回の実態調査は、歯科医院を受診した者を対象に口腔内診査を実施していることから、偏りが生じている可能性を考慮する必要がある。

○定期歯科健診を受診している者とアンケート項目との関連

	定期健診有無				合計		p値
	あり		なし		N	%	
	N	%	N	%			
問1-2 デンタルフロス(糸ようじ)や使っている 歯間ブラシを使っていますか。使っていない	36 (72.0)	79 (42.9)	115 (49.1)	14 (28.0)	105 (57.1)	119 (50.9)	<0.001
問1-3 過去1年間に歯の磨き方の指導 を受けたことがありますか。ある ない	46 (90.2)	60 (32.4)	106 (44.9)	5 (9.8)	125 (67.6)	130 (55.1)	<0.001
問3 歯周病の予防方法を知っていますか。	だいたい知っている	34 (68.0)	56 (32.0)	90 (40.0)			
	少し知っている	13 (26.0)	85 (48.6)	98 (43.6)			
	知らない	3 (6.0)	34 (19.4)	37 (16.4)			<0.001
問7 「噛ミング30運動」の意味を知っていますか。	知っている	17 (34.0)	28 (15.9)	45 (19.9)			
	聞いたことはあるが意味は知らない	7 (14.0)	35 (19.9)	42 (18.6)			
	聞いたことがない	26 (52.0)	113 (64.2)	139 (61.5)			0.018
問9-5 よく噛んだり、スムーズな飲み込み などの口の機能を保つための「お口の体操」 や「唾液腺マッサージ」を知っていますか。	知っていて、実行している	5 (10.0)	16 (9.1)	21 (9.3)			
	知っているが、実行していない	26 (52.0)	58 (33.0)	84 (37.2)			
	知らない	19 (38.0)	102 (58.0)	121 (53.5)			0.035
問10 むし歯や歯周病などが、がんや 心臓病などの治療に影響する可能性が あることを知っていますか。がんや 知らない	知っている	31 (62.0)	52 (29.4)	83 (36.6)			
	聞いたことはあるが内容は知らない	12 (24.0)	61 (34.5)	73 (32.2)			
	知らない	7 (14.0)	64 (36.2)	71 (31.3)			<0.001
問11 あなたは、寝たきりの方がご自 宅で歯科治療を受ける「訪問歯科診 療」があることを知っていますか。知っている 聞いたことはあるが内容は知らない 知らない	24 (48.0)	50 (28.2)	74 (32.6)	9 (18.0)	43 (24.3)	52 (22.9)	
	17 (34.0)	84 (47.5)	101 (44.5)				0.031

- ・ 定期歯科健診を受診している者において、デンタルフロスや歯間ブラシの使用や過去1年間の歯のみがき方の指導の有無、歯周病の予防方法の認識、半年前に比べて硬いものが食べにくくなるなどの口腔機能について、有意差がみられた。

(2) 成人期の調査結果の考察

歯みがき習慣について、「毎日歯を磨く者」や「1日に3回以上歯を磨く者」は年々有意に増加する傾向にあった。また、「デンタルフロス(糸ようじ)や歯間ブラシを使用している者」も増加傾向にあり、歯垢清掃行動に対する意識の変化が生じている。「歯周病の予防方法」や「歯周病と関連のある病気」、「8020運動・訪問歯科診療の認知度」においても良好な回答を示す割合が増加しており、歯科口腔保健事業による

一定の効果が認められている。要因の一つとして「かかりつけ歯科医院を決めている者」や「この1年間に歯科健診を受けたことがある者」の経年的な増加が挙げられ、これらが良好な歯科保健知識・行動の獲得に寄与していると考えられる。結果的に「何でも噛んで食べることができる者」も増加しており、口腔機能の維持向上に繋がっている。

一方で、「噛ミング 30 運動の意味を知っている者」は有意に減少していた。「噛ミング 30 運動」は歯科保健分野から食育を推進すべく、ひとくち 30 回以上噛むことを目標に厚生労働省より発表された¹⁾。咀嚼回数と肥満は密接な関係にあり、咀嚼回数の増加により満腹中枢が刺激され過食を予防できる²⁾。健康的な咀嚼による適切体重の維持は健康寿命延伸において必要不可欠な要素であり、「噛ミング 30 運動」の認知向上が今後の課題であるといえる。

また、定期歯科健診を受診している者は、デンタルフロスや歯間ブラシの使用や過去 1 年間の歯のみがき方の指導の有無、歯周病の予防方法の認識など、受診していない者に比較し、有意に高い状況であったことから、かかりつけ歯科による定期歯科健診の必要性について、引き続き普及啓発を図る必要がある。

1. 厚生労働省. 歯科保健と食育の在り方に関する検討会報告書 (平成 21 年 7 月). <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/07/dl/s0713-10a.pdf> (2021 年 7 月 4 日アクセス可能) .
2. 吉松博信: 肥満症治療のストラテジー咀嚼法からグラフ化体重日記まで. 日歯医師会誌 60 : 6-18, 2007.

5 障害児・障害者施設の調査結果

(1) 各設問に係る調査結果

1 歯科保健管理及び歯科医療の状況

1-1 施設における職員、嘱託の歯科医師・歯科衛生士の配置（複数回答）

年度	職員または 嘱託歯科医師	職員または 嘱託歯科衛生士	協力歯科医師	いない
H29	5.5%	0.0%	85.5%	9.1%
R4	6.3%	6.3%	87.5%	6.3%

- 職員又は嘱託歯科衛生士の配置が、H29 は 0%だったが、R4 年度は 6.3%に増加している。

1-2 歯科健診実施状況

年度	実施	未実施
H29	64.3%	35.7%
R4	79.2%	20.8%

健診頻度

年度	年 1 回	年 2 回	年 3 回以上	不定期	その他
H29	40.5%	18.9%	8.1%	13.5%	18.9%
R4	34.2%	10.5%	7.9%	10.5%	36.8%

検診未実施理由

年度	必要なし	歯科健診をしてく れる歯科医を知ら ない	歯科医師相談困 難	その他
H29	0.5%	-	10.0%	85.0%
R4	0.0%	0.0%	10.0%	90.0%

- 歯科健診の実施状況について、H29 年は 64.3%だったが R4 年は 79.2%に増加している。
- 健診の頻度については、その他が 36.8%となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響で不定期に実施、感染状況をみながら実施などという理由であった。
また、未実施の理由としては、新型コロナウイルス感染症により実施できていない、歯科医師等との調整が難しいなどの理由であった。

1-3 歯科医師、歯科衛生士からの保健指導の機会

年度	ある	ない
H29	86.0%	14.0%
R4	93.8%	6.3%

1 - 4 口腔衛生管理体制加算, 口腔衛生管理加算の設定

	口腔衛生管理体制加算	口腔衛生管理加算	算定していない
R4	12.5%	8.3%	85.4%

- ・ 歯科医師, 歯科衛生士からの保健指導について, あると回答した施設が H29 年は 86.0%であったが, R4 年は 93.8%に増加している。しかし, 口腔衛生管理体制加算, 口腔衛生管理加算を算定している施設は, 約 2 割にとどまっている。

2 食事介助, 食べる機能 (摂食機能) の維持・向上に関する状況

2 - 1 摂食嚥下機能について, 相談できる歯科医師・歯科衛生士はいますか。

年度	いる	いない	無回答
R4	85.4%	8.3%	6.3%

2 - 2 摂食嚥下機能に関する研修の受講状況

年度	ある	ない
R4	56.3%	43.8%

- ・ 摂食嚥下機能について, 相談できる歯科医師・歯科衛生士は 85.4%がいると回答している。研修受講についてはないと回答した施設が, 43.8%という状況である。

6 介護老人保健・福祉施設

(1) 各設問に係る調査結果

1 歯科保健管理及び歯科医療の状況

1 - 1 施設における職員, 嘱託の歯科医師・歯科衛生士の配置 (複数回答)

年度	職員または嘱託歯科医師	職員または嘱託歯科衛生士	協力歯科医師	いない
H29	8.3%	8.3%	77.3%	6.1%
R4	8.0%	14.9%	88.0%	6.9%

- ・ 職員または嘱託歯科衛生士の配置が, H29 年は 8.3%であったが R4 年は 14.9%と増加している。
また, 協力歯科医師についても, 77.3%から 88.0%と増加している。

1 - 2 歯科健診実施状況

年度	実施	未実施
H29	33.5%	66.5%
R4	37.7%	62.3%

健診頻度

年度	年 1 回	年 2 回	年 3 回以上	不定期	その他
H29	32.4%	4.4%	13.2%	17.6%	32.4%
R4	30.3%	10.6%	9.1%	10.6%	96.4%

検診未実施理由

年度	必要なし	歯科健診をして くれる歯科医を知ら ない	歯科医師相談困 難	その他
H29	6.9%	4.3	12.1%	76.7%
R4	17.4%	11.0%	12.8%	65.1%

- ・ 歯科健診の実施状況については、ほとんど変化はみられなかった。新型コロナウイルス感染症の影響が推測できる。健診頻度については、入所時に歯科健診をしている、訪問歯科診療時などの他、新型コロナウイルス感染症の感染状況をみながらが多かった。

未実施の理由としては、必要時に訪問歯科診療を受けている、新型コロナウイルス感染症の影響で実施が難しい、施設の歯科衛生士や職員が定期的に口腔内をチェックしているので、歯科健診は実施していないなどであった。

1 - 3 歯科医師、歯科衛生士からの保健指導の機会

年度	ある	ない
H29	78.6%	21.4%
R4	74.7%	25.3%

- ・ 歯科医師や歯科衛生士からの保健指導の機会について、H29年とR4年にあまり変化はみられず、約75%の施設で、指導を受ける機会があると回答している。

1 - 4 口腔衛生管理体制加算、口腔衛生管理加算の設定

	口腔衛生管理加算（Ⅰ）	口腔衛生管理加算（Ⅱ）	算定していない
R4	15.4%	16.6%	68.0%

- ・ 口腔管理体制加算や口腔衛生管理加算を算定について、約7割が算定していないと回答している。

2 食事介助、食べる機能（摂食機能）の維持・向上に関する状況

2 - 1 摂食嚥下機能について、相談できる歯科医師・歯科衛生士はいますか。

年度	いる	いない
R4	73.7%	26.3%

2 - 2 摂食嚥下機能に関する研修の受講状況

年度	ある	ない
R4	72.6%	26.3%

- ・ 摂食嚥下機能について、73.7%が相談できる歯科専門職がいると回答している。また、研修会についても72.6%が受講していると回答している。

(2) 障害児・障害者施設及び介護老人保健・福祉施設の調査結果の考察

- ・ 障害者・障害児施設，介護老人保健・福祉施設において，職員又は嘱託歯科衛生士の配置や協力歯科医師が増加していることから，歯科口腔に関する意識や必要性が認識されてきていると考えられる。
- ・ 歯科健診の実施状況について，障害者・障害児施設 79.2%，介護老人保健・福祉施設においては 35.7%という状況であった。いずれも増加傾向にはあったが，要介護者は口腔状態と全身状態とは密接な関係があり，安全に自分の口で食べられるよう，多職種連携による口腔ケアや口腔リハビリは重要であり，定期歯科健診や必要な歯科医療サービスが受けられるよう体制の充実を図る必要がある。
なお，今回の実態調査については，新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている状況下での調査であったことから，今後は感染対策をとりながら歯科健診等の実施に向けて検討していく必要がある。
その一方法として，「口腔衛生管理加算」等を活用し，地域の歯科医師等と連携しながら，利用者の口腔ケアや摂食嚥下等を含む歯科口腔保健を推進していく必要がある。